

[未来への一投]

パラ陸上 やり投げ

や ま ざ き あ き ひ ろ

山崎 晃裕 選手

To the top of the world

Akihiro Yamazaki

先天性の右手首欠損障害を持つ。パラ陸上で「やり投げ」を始め、5か月後には28年ぶりに日本記録を更新。現在も自身の記録を更新し続け、世界で活躍する鶴ヶ島出身の注目のアスリート。東京パラリンピックでのメダル獲得と鶴ヶ島への想いを聞く。

野球一筋

小学3年生から鶴ヶ島エンゼルスで野球を始めました。コーチから片手のみでの捕球と送球の方法やバッティングを教わり、いろいろな工夫しながら中学・高校まで健常者の仲間と一緒にプレーしてきました。負けず嫌いの性格なので、誰にも負けたくないという思いは、ずっと持ち続けていました。

大学進学後に「日本代表のユニホームが着たい」と思い、身体障害者野球に挑戦することにしました。光栄にも日本代表に選んでいただき、平成26年に行われた身体障害者の世界野球大会(WBC)で準優勝することができました。

決勝戦を終えて感じたことは、負けて悔しかったこともありましたが、それとともに「注目度の低さ」に驚きました。日本代表として戦っても、皆さんに知ってもらえず、メディアの露出も少なく、健常者の方のWBCとはまったく違うものでした。

新たな挑戦

アスリートとして、より大きくなりたいたいという思いがあったので、注目度の高いパラ陸上に挑戦することにしました。できるだけ多くの方に応援してもらえ、ような舞台に行きたいという思いが一番大きかったですね。様々な競技がありま

すが、野球で培った肩を生かせると考え、「やり投げ」を選択しました。

デビュー戦では、54m48を投げて日本新記録を、昨年5月に行われたワールドパラアスレティクスグランプリ北京大会では、60m65の自己ベスト(日本新記録)を出すことができ、優勝することができました。

東京オリンピック・パラリンピックもあり、今までよりもパラスポーツはメディアの扱いも大きく、多くの方に知ってもらえる機会が増えました。

人を勇気づけられたり、夢を与えられる存在になりたいと思っているのも、もっと活躍して自分をアピールしていかなければなりません。

金メダルを取る

東京パラリンピックで金メダルを取ることが、今の最大の目標です。あと約2年、今に集中して全力で取り組んでいき





撮影：日本パラ陸上競技連盟

高校生まで健常者と野球をし障害者野球へ。身体障害者野球のWBCで日本代表となり準優勝に貢献、優秀選手賞を受賞。やり投げに転向し、世界ランキング4位の日本を代表する若きアスリート。鶴ヶ島第一小学校、西中学校出身。順天堂大学さくらキャンパス職員、23歳、167cm、78kg

ます。

また、自分が所属するF46クラス（上肢欠損など）の世界記録は64m11です。その記録を更新し、パラの選手としてではなく、一人のやり投げ選手として、どこまで成長できるか挑戦します。

そのために、投げ込み、ウェイトトレーニングの他に、走力や跳躍力などの体力と技術、知識などの総合力を高めていく意識を大切にしています。

鶴ヶ島への想い

野球をやり始めてから出会った多くの方に、頑張っているなと思ってもらいたいです。

また、今現役で野球などを頑張っている子どもたちに、自分の生き方と活躍を見てもらい、何か希望を与えられたらいいなと思います。子どもたちから、あんな先輩がいたんだと思ってもらえたら、これ以上嬉しいことはありません。

私と同じような障害を持つ方も、いろいろなスポーツに挑戦するという選択肢を捨てないで「やりたい」という気持ちを大切にしたいです。片腕で生まれた私も、ただ純粹に「やりたい」という気持ちで野球を始めて今があるので。出来ないからと、最初から諦めないでほしいです。

自分の地元である鶴ヶ島をもっとアピールできるような選手になりたいです。そのような存在になることで、皆さんに恩返しができると思います。

鶴ヶ島を盛り上げたいという気持ちは、誰よりも強く持っていますから。